

詠む広場

片山由美子 選

最優秀

中断の会議再開秋扇

東京 渡邊 顯

優 秀

すこやかにとくだみの花はびここれり
咲くものに止まるでもなく秋の蝶
さいたま市 根岸 青子
川口市 高橋さだ子

小川 軽舟 選

最優秀

路線図の色を乗り継ぐ春着かな

川崎市 中山美都子

優 秀

柿若葉奈良交通のバスを待つ
双塔の西は明るし片時雨
大阪市 中村美津子
葛城市 久保 政子

西村 和子 選

最優秀

日本語を覚えて帰るつばめあらん

東京 東 賢三郎

優 秀

初蝶の宙にて生まれたるごとし
笑ひ声耳を離れず初盆供
東京 望月 清彦
横浜市 斎藤 山葉

井上 康明 選

最優秀

初つばめ喫水線を来たりけり

福岡市 鶴田 独狐

優 秀

誰も見ぬ地獄極楽曼珠沙華
寛やかな未来であれよふくれ餅
筑西市 大久保朝一
川越市 峰尾 雅彦

選句の幅が狭くならないように心がけてきた。特にしらべについては口語調や字余りも効果的に用いられていれば採りたいと思っている。

その上で最優秀・優秀として残ったのは、季語が一句の要になっていない作品である。渡邊さんの句は言葉で説明することを避けて、秋扇という「もの」で人間心理を表現。根岸さんの句のどくだみは、歓迎されないにもかかわらず美しいという二面性が浮き彫りに。高橋さんの句の秋の蝶は、春や夏のチョウとの違いがとらえられているのが印象的だった。

毎日俳壇の投句者は全国に広がっている。作者の住む土地やそこでの暮らしがりを想像しながら作品を読むのが楽しい。

中山さんの句は、晴れ着を着て初詣に来たようだ。色とりどりの路線図が東京らしく、「色を乗り継ぐ」に心の弾みが感じられた。

中村さんと久保さんの句は奈良が舞台だが、中村さんは奈良を訪れた人の視線、久保さんは当麻寺あたりを喜らす人の視線が生きている。どちらも取り合わせた季語が土地に似合っており好ましい。

日々の小さな発見が、ささやかな幸福をもたらす。人生の折々の実感が、生きる励ましを与えてくれる。今年も皆さんの多くの作品を読み、選句を通して俳句を作る恩恵を改めて教えられた。

東さんの句から、渡り鳥のなかでも最も人間の日常に近いツバメの存在を、新たな視点から見ることができた。望月さんの句は今後、初蝶に出会うたびに思い出さるだろう。斎藤さんの句には残された者の悲しみがたたえられているが、亡き人の笑い声に励まされてもいるのだ。

ウクライナやパレスチナ自治区がザ地区の戦争の報道がつづく。そのような時俳句を作ることにはけがえのないひととき、その成果と出会う幸いを感じる。

鶴田さんの作品は、春のツバメの到来をさわやかに詠む。喫水線からは大型の船が太平洋を行き交う光景を想像する。大久保さんのマンジュシャゲから連想する地獄や極楽は誰も見ることがないという断定、峰尾さんのふくらむ餅に寛やかな未来を祈るという切ない願いは、季語を生かしながら屈折があり味わい深い。

毎日歌壇賞・毎日俳壇賞 2023年



<歌集>

新刊

<句集>

◇吉田哲二『髪刈る椅子』 第1句集。作句開始が自身の子の誕生時だったからか、すこやかな父子像・家族像が光る。△こはこはとよその子叱る良寛意△弟は素直に甘え梨の花△。また、△基地の中まで寒林のひと続き△のような社会的な視点を持つ作品もよかった。(ふるんす堂・2750円)

◇藤田るのこ『青葡萄(ぶどう)』 第1句集。動く女性としてのきっぱりとした作品や、気負わぬ海外詠がおもしろい。△数へ日の植糸替へらるる花時計△トランクを食卓にして青葡萄△△人類史に残らぬひと曰ヒクニック△(ふるんす堂・3080円)

◇南十二国『日々未来』 第1句集。現代の風俗や用語に目を配りつつも、文体は素朴であり、読後感が優しい。△また使ふからだ横たへ三尺寝△△重機みな途中のかたち喜れかめる△△ポストの底にひしめく宛名春を待つ△(ふるんす堂・2750円)

(俳人・榎未知子)

◇倭方智『アポカドの種』 宮崎から両親の住む仙台へ著者が引越して、息子は東京の大学生になった4年間の375首を収める第7歌集。心から言葉をつむぐとき、歌は命を持つという「あとがき」の言葉が胸に響く。△言葉から言葉つむがずテーブルにアポカドの種芽吹くの待つ△(角川書店・1540円)

◇久々湊盈子『非在の星』 第11歌集。目まぐるしく変化する現代に生きて、今歌わなくてはならないという強い意志が伝わる。4年間の作品を制作順に収録。△投網のごとく老いは被(かぶ)さりくるるという歌あり今日胸に刺さりて△(興々堂・3300円)

◇松村由利子『科学をうたう』 センス・オブ・ワンダーを求めて『パンデミック・地球環境・宇宙など』科学』を題材にした短歌について時代状況を鮮やかに記す。△マスクしてコロナウイルスに抗(あらが)へば不要不急のものらかがやく 馬場あき子△(春秋社・2530円)

(歌人・中川和子)